

2019年度「こころと生活等に関する調査」結果概要について

生徒指導支援室

1 調査の概要

- (1) 実施日 令和元年6月3日(月)から6月28日(金)までの期間の1日
 (2) 調査対象 県内の小学校第4学年、特別支援学校小学部第4学年の全児童
 (3) 調査内容 こころと生活等に関する調査
 児童の自己肯定感、学校適応(関係性・学力・いじめ)、家庭適応、こころの状態(生きる意欲・コミュニケーション力・レジリエンス)及び発達の偏りなどに関する質問紙調査

(4) 実施状況

○ 公立		
小学校	191校	(10,616名)
特別支援学校(小学部)	1校	(2名)
○ 私立		
小学校	2校	(99名)
合計	194校	(10,717名)

2 児童個別の調査結果の活用

調査結果を活用するため、個票を実施校に送付するとともに、事後研修会を開催した。研修会では、個票を確認した上で二者懇談を実施している例や、学校不適応を起こす児童生徒の指導・支援の参考にしている例が報告された。また、一見、不登校傾向の前兆が見られなかった児童生徒について、アンケートではその兆しが表れていたことが報告され、表出しない児童生徒を客観的に見立てる補助資料として有効であることが確認された。

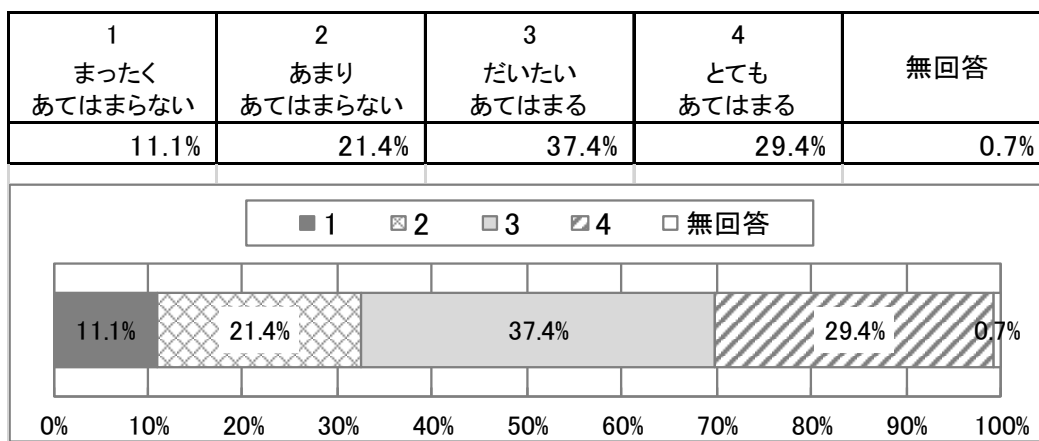
このことから、学級担任が児童生徒理解を深めることができる他、複数の教職員が共有するツールとして活用でき、いじめや不登校等生徒指導上の諸課題の未然防止、早期発見・早期対応に繋がるきめ細かな生徒指導体制の構築に生かすことができると考える。

《活用する際の教員への留意事項(例)》

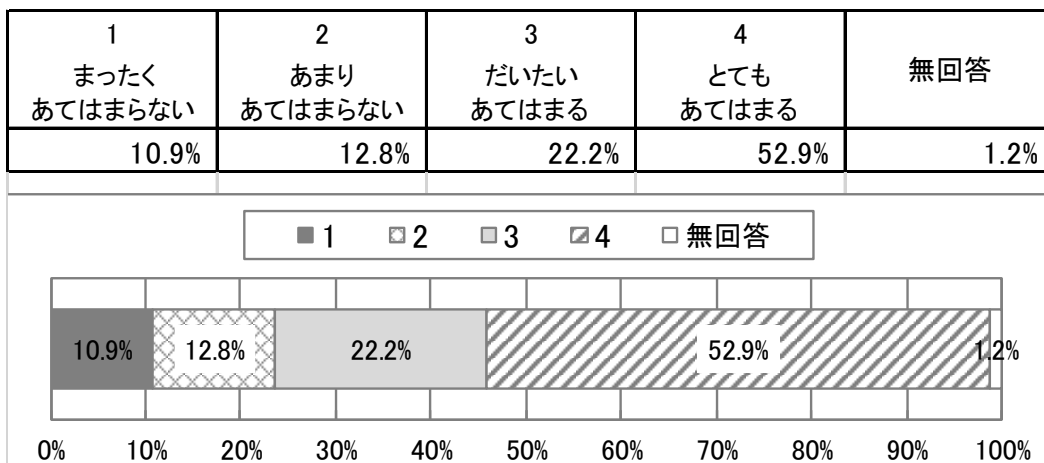
- 得点だけを頼りにせずに、「目」に映る児童の姿と突き合わせ、印象と異なるときは、特に注意して児童のことを観察する。
- 個票をそのまま児童や保護者に見せるのではなく、その結果を基に、「何か困っていることはないか?」「家庭ではどんな様子か?」等、話し合う。
 「教師との関係」「家庭での居心地」については反抗期の児童の場合、ちょっとしたできごとで、得点が低くなる場合があるので、得点の高低に過剰にこだわらない。

3 主な調査項目の結果

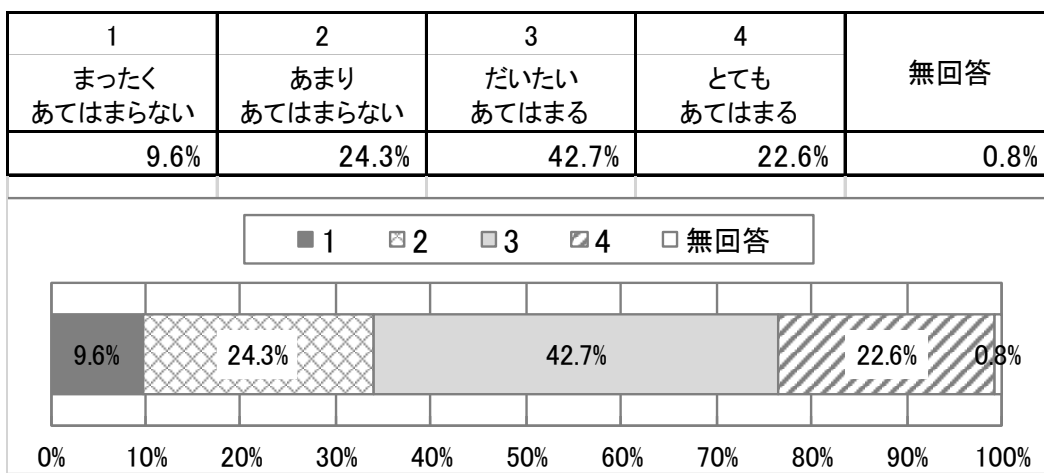
(1) 私は、自分のことが好きだ。【自己評価・自己受容】



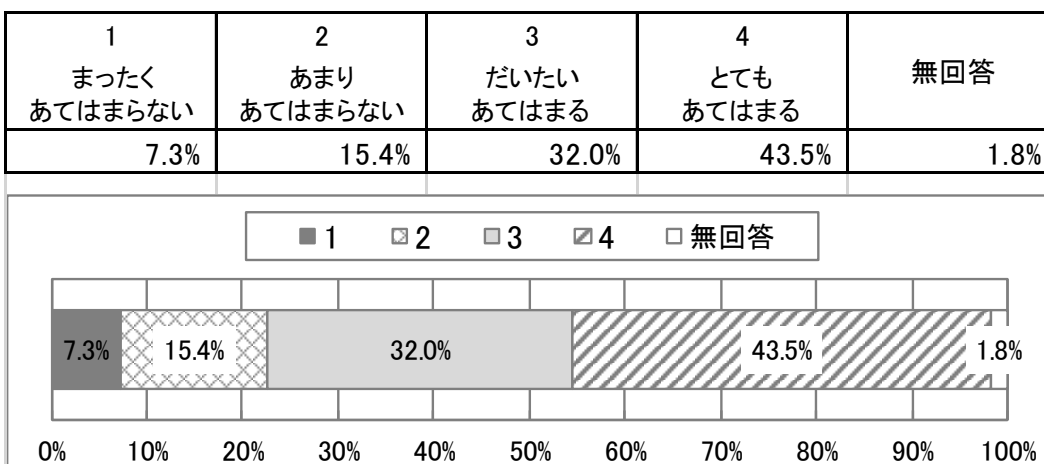
(24) なやみを話せる友だちがいる。【友人関係】



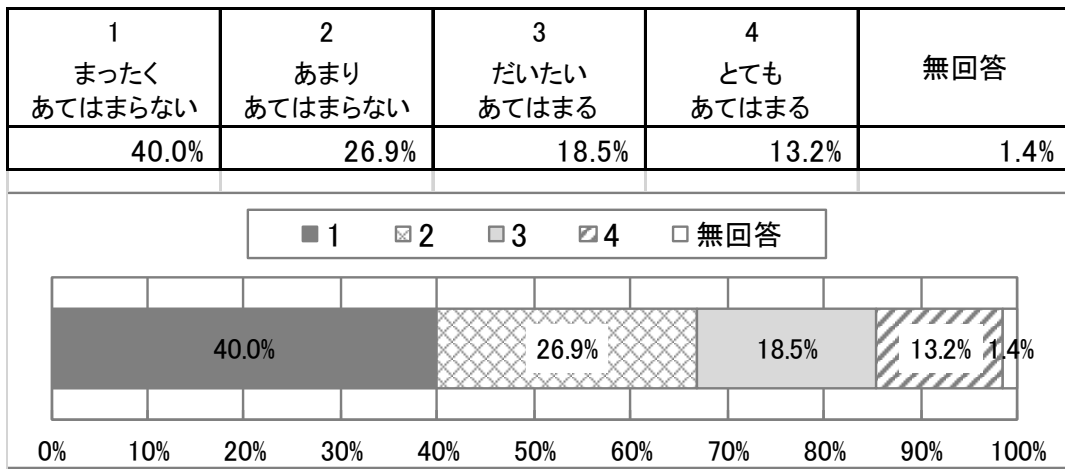
(29) 自分の気持ちや考えをうまく伝えることができる。【コミュニケーション】



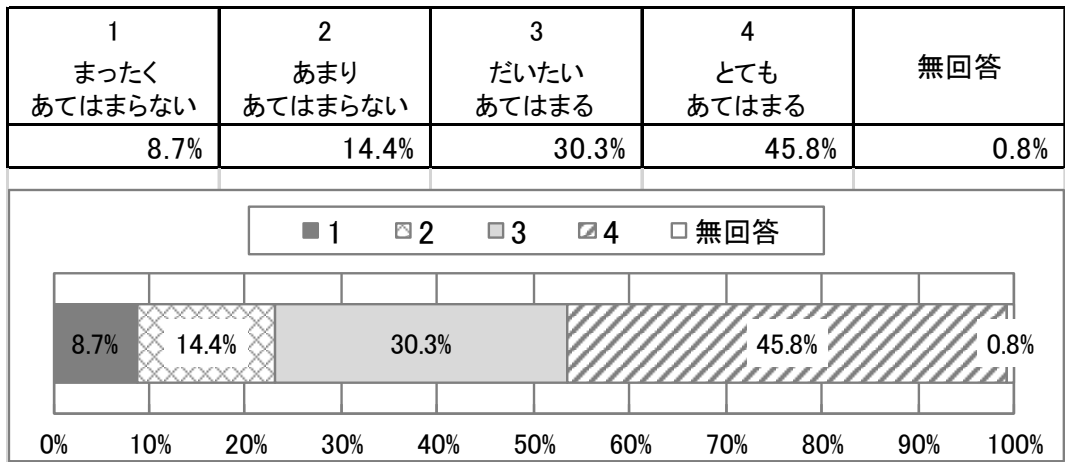
(33) 私には、自分のことを必要としてくれる人がある。【関係の中での自己】



(34) 友だちにいやなことをされることがある。【いじめられ感】



(38) 学校に行くのが楽しみだ。【学校好き】



(42) 今をいっしょうけんめい生きていきたいと思う。【生きる意欲】

